

若手技術社員が事例発表

日さく

最優秀賞は「新潟県内の地盤沈下観測」



オンラインで128人の社員
が参加

日さく(若林直樹社長)はさきごろ、「2026年社内技術発表会」をオンラインで開いた。若手を中心に12人の社員が、日ごろの業務を通じて得られた知見や成果の事例を発表した。

今年は、「新たな視点で超える知恵 次代へつなぐ技術力」をテーマに、IoTの導入による業務効率化や施工品質の向上、難易度の高い工事への対応、地震被害調査など多彩な発表があった。

た。

発表会の企画・運営は、社員の自主性に委ねられており、若手社員にとっては、経験と勉強の場となっている。参加者は、技術職・事務職を含めて全社員の約半数にのぼり、今年も128人の参加があった。

聴講者の投票により、最優秀賞は、岩井大輝氏(新潟支店地質調査部)が発表した「新潟県内における地盤沈下観測業務とその実態紹介」が選ばれた。優秀賞は、篠原亮哉氏(埼玉工場)の「NSTスクリーンの品質管理について」、後藤匠氏(仙台支店)の「大規模地すべり地帯における抑止杭工の施工事例」の2編。

若林社長は、「一人ひとりが現場を重視し、技術力を向上させていると感じた。当社は、地域社会の安全・安心への貢献やお客さまの課題解決を目指しているが、そのためには技術力のみならず人間力の向上が必要。さらなる技術力・人間力の向上に期待をしている」と総括した。

水 道 産 業 新 聞

2026年(令和8年)10月12日(月曜日)